



パネリスト 安井善成

有限会社安井ファーム 代表取締役

自己紹介と当社の概要について。



石川県白山市 TEL076-255-7494
<https://www.yasuifarm.net/>

●自己紹介

2004年代表取締役就任。

●当社の概要

2001年5月法人化。2003年稲・大豆にブロッコリーの栽培開始。

2008年県内初のGLOBAL G.A.P.認証取得、大手量販店を中心に販売。Twitter等SNS活用の情報発信やネットニュース等の報道多数。2019年度農林水産祭内閣総理大臣賞受賞。
ブロッコリー84ha、稲42ha、大豆17ha、その他野菜を5ha等

野菜栽培のため導入した機械 ロボットトラクター1台、オートトラクター1台、ドローン1台
社員9名(平均年齢35歳)、技能実習生7名、パート14名、臨時5名

●野菜の取引状況

ブロッコリー スーパー、レストラン等4割 市場5割 直売所1割

その他野菜(ぶどう、ブルーベリー、栗、柿、梅、サツマイモ、とうもろこし、カボチャ、玉ねぎ、にんじん、ネギ、小松菜、白菜、キャベツ、etc…) レストラン3割 自社直売所7割



パネリスト 安井善成

有限会社安井ファーム 代表取締役



石川県白山市 TEL076-255-7494
<https://www.yasuifarm.net/>

私の、安定取引に繋げる水田での野菜づくり。

○米の収入は年1回。複合経営による、毎月ベースの売上げ確保。

→ブロッコリー、米、その他野菜等の3本柱。その他野菜等で次の柱を検討。

→米麦大豆との按分で地代削減、ブロッコリー後の稲はすべて無施肥。

→常に削減経費を模索。固定観念の使用資材、土壌分析で不要な成分は落す。

○加工用ブロッコリーは50%国産使用目標の(株)セブン&アイホールディングスの取組みに参加。

→ブロッコリーの加工業務用増加（国内産は1%）。単価より量にメリットあり。

○自動操舵は集約圃場で有効。使える機械は2～3割だが技術革新は必要。

→ドローンのAIによる適期収穫に期待。

○産地化を行うのは仕組みづくりが重要

→得意の品目販売を生産者間で融通。しかし農家個人が地域をまとめるのは困難。

→JAによる産地化は集荷選別の受皿になり販売も担う必要。